

# 多治見の名山をめぐる

多治見市からは中央アルプスの山並みや、恵那山・御嶽山・白山などの高い山々を見ることができ、隣接する町との境には400mほどの山が連なっています。また、人里に近い山々は、地域の人々の暮らしを支える里山として親しまれ、さまざまな歴史、伝説や昔話が残されています。



**たかやしろ 高社山 416.6m**  
 山頂に高社神社があり、隣接する山とともに釈迦の寝姿に見えることから「寝釈迦」といわれています。盲目の神主が高社神社で21日間祈願をしたところ、黒龍が現れ、目を治してくれた昔話も残っています。(ふるさと小泉)

**浅間山 372m**  
 美濃富士とも呼ばれる可児市で一番高い山で、浅間神社が祀られています。万葉集では真十山(おきそやま)とも歌われ、深く里人に親しまれてきました。(岐阜県神社庁のHP)

**丸山 297m**  
 中央道多治見ICから2つ目の土岐トンネルの上にあたります。丸山の北を越えて、欠築・虎溪山の北から旧長瀬村へ出る道は下街道の近道とされ、峠には出茶屋が3、4軒あって、旅人の往来がにぎやかであったといわれています。(土岐市史2)

**池田富士 366.9m**  
 江戸時代の初めごろに富士登山をした者が富士山の土を持ち帰り、池田富士の山頂に埋めて浅間神社を建立したといわれます。八合目には雨乞いの神である八大龍王社堂があり、早ばつのときに雨乞いの祈禱をしたといわれています。(池田郷土史)

**前ヶ平山**  
 京町の南に形の良い山があり、下之洞富士とか、お愛宕山とよばれています。山頂には愛宕神社があり、秋葉様、水神様、弁財天様も祀られています。また前ヶ平山の東あたりをお鉄山というそうです。(京町今昔物語)

**ほうづき 方月山 466m**  
 現在は東海環状自動車道のトンネルが通っています。山の木々は明治時代、御料林(天皇の所有林)となり、払い下げが問題となった山です。(かさはらの歴史) また、方月山とうしおど山の谷あいの細い道は、おみつという娘が佐助という芝居の役者絵から抜け出してきたような男に逢うために通ったとい、「おみつあ街道」と呼ばれています。(かさはらの昔話)

**弥勒山 463.3m**  
 江戸時代後期、甘原大龍寺授戒会に導師として来寺した名古屋万松寺住職が弥勒菩薩の石像を山頂に祀ったことから弥勒山と呼ばれるといわれています。弥勒山が名古屋城の鬼門に当たるとか内津妙見神社の守護神として建立されたともいわれます。(多治見風土記・池田郷土史) 山頂からは濃尾平野を一望でき、気候のよい時期には登山者の姿をよくみかけます。

**池田富士**  
**道樹山**

**どうず 道樹山 429m**  
 春日井市外之原に徳のある僧侶をさすといわれる「堂ヲ須」という地名があり、いつからか「道樹」という漢字が当てられたといわれます。この地名からこの地域は山岳仏教に関係があったと考えられます。(春日井の地名物語) 大谷山・道樹山・弥勒山を愛岐三山といわれています。

**笠原富士 471.9m**  
 周辺は潮見の森として整備されています。現在深山にあるお不動様は、昔は笠原富士の麓にあったのですが、深山の滝の音を聞いて滝のそばへ行きたいと村人に頼み、深山へ移されたので、お礼に万病に効くという泉を湯の沢につくったという昔話が残されています。(かさはらの昔話)

**方月山**  
**笠原富士**

郷土のことについて調べるなら

## 郷土資料室へ

地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合せ下さい。市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供も募集しております。

多治見市図書館郷土資料室

【場所】 多治見市豊岡町1-55 ヤマカまなびパーク4階 JR多治見駅より徒歩5分

【電話】 0572-23-3783

【開室時間】火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室) ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください